



「山に広葉樹を植える運動」第10回植樹祭

町の未来を苗木に託して

山田の海を守る会（会長・沼崎喜一町長）が主催する「山に広葉樹を植える運動」第10回植樹祭が5月9日、船越四十八坂地区の町有地で開かれました。これまでにはぐくまれてきた豊かな自然を守る活動への意識高揚を図りながら、海との結び付きの強い森の大切さを再認識してもらおうと毎年行われていたのです。10年目の節目となる今回は、コナラとブナそれぞれ350本の広葉樹に加え、遊歩道を歩く人に楽しんでもらおうと100本のツツジも植えられました。当日は町内の森林愛護少年団や海づくり少年団、漁業関係者など総勢270人が参加、豊かな海を



開会行事の後、一斉に植樹作業を開始

参加者にインタビュー



苗木の成長が楽しみ

福士 悠太君

（大沢小5年）

ボーイスカウトで毎年参加し、今年で5回目になります。みんなで植えた苗木が大きな森になって、山田の海を守ってくれるよう願っています。来年には、自分で植えた木がどのくらい伸びているかとても楽しみです。

大きく育てほしい

松葉理桜さん

（山田北小2年）

広報を見てお父さんと参加しました。穴を掘るのが大変だったけど、手伝ってもらって植えることができました。わたしたちの植えた木が大きく育って、いろんな動物たちが来ればいいなと思っています。



くむ森づくりに取り組みました。開会行事では、沼崎町長が「森は海の母親」ともいわれています。はからずも今日は母の日。栄養豊富な水を海に流し続けてくれる森の恵みに感謝しながら苗木を植えてほしい」といさつ。その後、参加者らは古地方森林組合職員らの指導を受け、約30町の植樹会場に緑の成長を願いながら、一本一本丁寧に苗木を植え込んでいきました。



スコップで丁寧に土をかぶせます



登山客の目を楽ませるツツジも植樹